

216  
434

神のみわざ

020347-000-0

特16-424

神のみわざ 第1編

小室 篤次 / 著

M34

ABI-0153





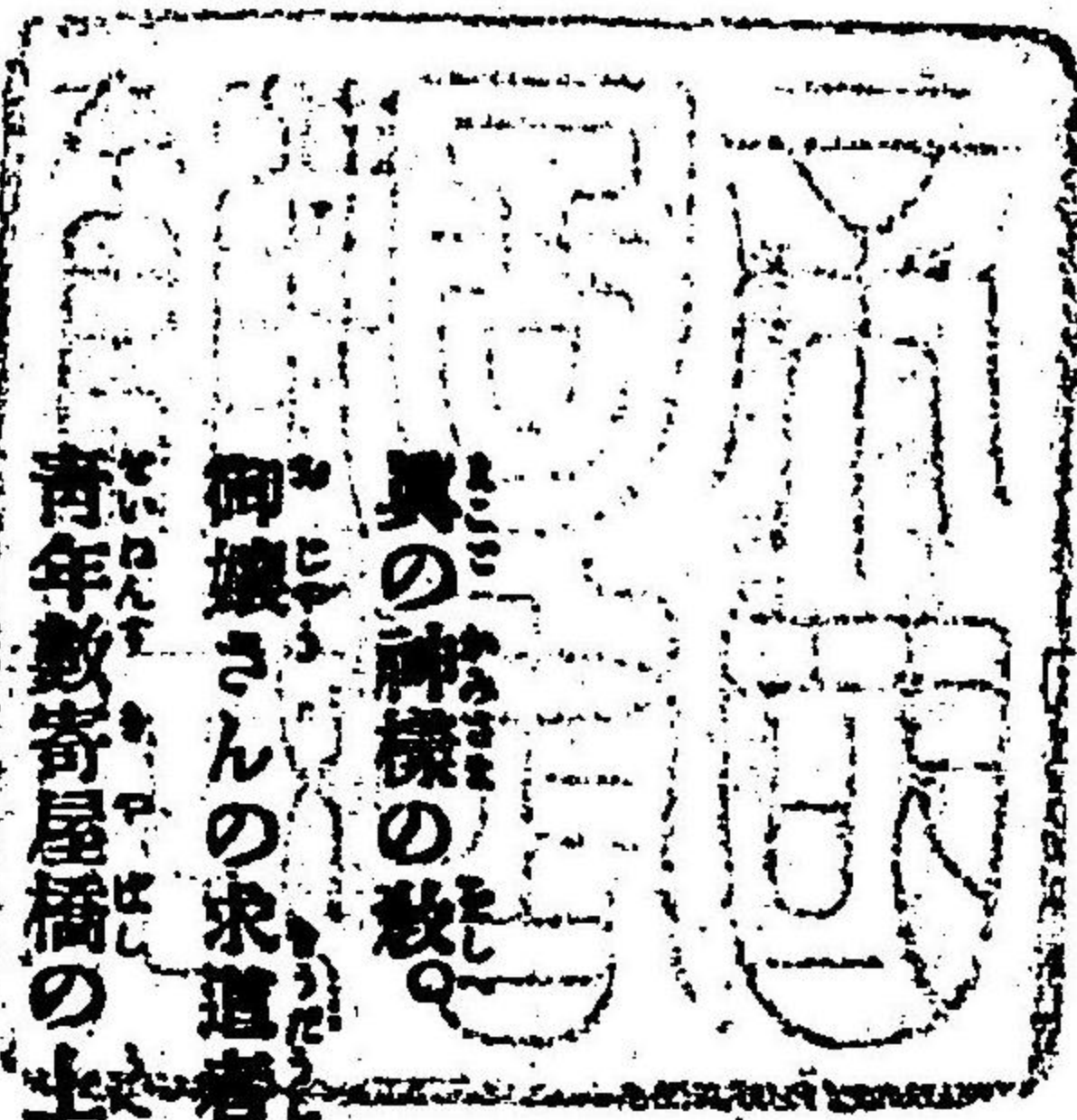
216

430

神のみまは







# 神のみわざ目次

(第



眞の神様の救。

御嬢さんの求道者。

青年教寄屋橋の上に泣く。

亞の悔改。

愛らしい御嬢さんの導き。

祈禱の應驗。

三人の幼児父母兄弟の爲に祈る。

一青年徒歩横濱より来る。

献物のかすく。

暴飲家の博奕打の悔改。

五十人の工夫に道を傳ふ。

亞兒父を導く。

女學生の悔改。

六部神の道を求む。

巡査の悔改。

分捕の指輪。

婆婦のレプダ。

乳母車。



此小冊子は、日本、基督教、廿世紀、大舉傳道の、結實の、初穂であります。神様御自身の、妙なる、御わざの、あかきであります。此小冊子を、用ひて、多くの靈魂を、救ふ助けとして、下されば、此上もない、幸福であります。イエス様の、御名に由りて、神様の御前に、捧げます。

著者

取巻、出版されたら、少しの、圖書は、有る、と、知れ、た、と、夫、れ、は、再版の、こと、に、成、り、ま、す、  
から、御ゆるしを願ひます。 明治卅四年五月廿五日

## 眞の神様の教

「キリシタン邪宗門、堅く御禁制の事」などと云ふ制札は、鐘大鼓で探しても、見當らぬ今日、チヨン留も、切り、大小も捨て、文明開化の、大道を歩くと云ふ、有難い明治の大御代、天が下に、亦とない、耶穌教神の愛と、人類の救拯と、人間のつとめとを教へる、誠の宗教、キリスト教を信することも、勝手に出来る、此明治の聖代に生れたのは、私共の、此上もない幸福であります。

耶穌教は如何様教かと云ふことを、一ト口に、御話し申せば、まあこゝです。

●大昔の、人間の御先祖様は、木のまたから生れたのでもなく、天から降つたのでもなく、地から湧たのでもなく、全能全智、愛の神、大慈大悲の神様が有



て、人間を、たつくりなされた、と云ふこと、これが二ツ。

●此人間も始めは、神様の形に似て、立派な者であつたのが、だんく悪事を働いて、其悪い根性が、心の奥に染みこんで、もがいても、苦んでも、取り去ることの出来な  
い様になつた。其證據には、孔子様も、善い事をしやうと思つても、出来ないと言ふて  
泣き、御釋迦様は、とうく、世の中を捨て、山に這入た。さあこれが、耶穌教の、  
大切な教です。人は凡て罪人である、と云ふこと、義人あるなし、一人もある  
なしと云ふてあるのは、爰のことです。盜賊をしない、人殺しをしない、これは當り  
前の事です此外にも、人々は、多くの罪を犯しております。彼奴が憎い、彼人が怨め  
しい、あれが欲しい、これが欲しい、如彼もしたい此如もしたいと云ふ、邪念邪欲を  
起す。これが罪です。此罪がつもりくつて、人も殺し物もぬすむ。心の中の罪か  
ら、脱れなければならぬ、と云ふこと、これが二ツ。

●針の山や血の池は、遠い未來のことではない。罪に罪をかされて、巳が心の、赤鬼  
や青鬼に、責めたてられ、此惡魔に、責められて、罪の山に逐ひ上げられ、罪の池に  
沈で、救ひを呼び、助けを求めて居る人は、澤山あります。どうしたら、罪の深みか  
ら、脱れ出ることが出来ませうか、又神様は、雨露の恵みに、草木を養ひ、萬物を興  
へては、人類を恵む、神様であり乍ら、此様な罪の深みに、苦んで居る人々、私共を  
見過しに、なさいませうか。神様は、全能全智、大慈大悲でありますから、私共人間  
を、救ひなされる爲に、獨りの御子イエスキリストを、此世に御降しになりました。此  
キリスト様の、御功績で、罪に汚れた私共も、其血汐の恵によりて、淨められる、  
そんな罪多い人でも、神の恩で、眞人間になることが出来る、此罪の赦と云ふこ  
と、これが三ツ。

全能全智、大慈大悲の神様は、天地萬物と、人類との、造り  
主である。世の中に在りどあらゆる、人間は、皆罪人である  
此罪の深みより、救ひ出たさるゝのは、只々、神の獨り子、



イエスキリストの、恩の血汐です。

元始に、神、天地を創造たまへり。(創一〇二)

おろかなる者は、心のうちに、神なしといへり。かれらは、腐れたり、かれらは、にくむべき事をなせり。善をたこなふ者なし。

(詩一四〇二)

それ神は、其獨り子を賜ふ程に、世の人を愛し玉へり。

(約三〇一六)



# 来りて見よ……論より證據

救はれたる人々の證據

## 暴飲家の博奕打の悔改

朝から晩まで、酒と博奕に身を持ち崩し、始終、家内に波風を立て、妻兒に難儀をかける云ふ、一人のコックさんがあつた。此人が、或教會の説教會に導かれて来て、神様の教を聞いて居る中に、神様の教が、胸を刺す様に感じて、とうとう立ち上つて、神様に従ふ、今迄の悪事を捨て、眞性な人間に、なると云ふ、決心をして、大勢の人の中で、大膽に、罪の懺悔をして、神様に、罪の赦の、祈をした。其晩、家へ歸て、こうくと、細君に話をしたら、驚たのは妻君です。

「お前さんの様な人が、改心する様な教なら、キリスト教は、屹度善い教だらうから、



私も耶蘇教を聞いて見よう」と云ふて、翌晩から、夫婦打ち連れ立て、毎晩教會に教を聞きに来て、とうとう、夫婦とも、神様の教に従つた。其處で家内の波風が治り、夫婦の仲が睦くなつた。

七日間道を尋ねて、漸く神に従ふ。』た嬢様の求道者。

或學士のお嬢さんが有た。耶蘇教の説教會へ、毎晩出掛けて来て、道を聞いて居たが、なかく、神に従ふと云ふ、決心をしない、勸めても、駄目であつた。いつも、説教會の濟むと、別の室へ行って、質問會と、云つていろいろ分らないことを、語り合ふ、部屋へ行っては、聞いて居た、所が、丁度七日目の晩であつた、か斷然神様に従ふ、決心をして、斯う云ふことを、書て、牧師さんの手元へ差出した。

耶蘇基督の道を、求めたく存候間、何卒、御導き下され度、願上奉り候。

年月日 住所 姓名

神様の、御招が有て、今神様に御従ひなさいと、云はれる時に、躊躇して、信者にな

りそこなふと、大變です。けれども輕々しく、神様の道に従ふ、約束をするのも、餘り、喜ばしい事ではありませぬ。此お嬢さんは、年が漸う十六です。此眞面目な心掛は實に感心です。神様は、こう云ふお嬢様を、神の婢として、神の御祭の爲め、世の中の人の爲めに、立派な働を、たさせなさるゝに違ひありません。神様の聖書中には、女が髪飾りや、衣服の飾より、心を飾ることが、大事だと云ふ事が、書てあります。

「婦女は、恥を知り、よくつゝしみて、宜に合ふ衣にて、自ら飾り、髪をわむこと、金と眞珠と、價貴き衣を以て、裝飾とせず。善行を以て、裝飾とせんことを願ふ。神を敬ふ女は、如此すべき事なり。婦女は、凡てのこと、順ひて、靜に道を學ぶべし。」

五十人の工夫に道を傳ふ。華族さんの傳道

神の教は、華士族平民の別はない。穢多でも非人でも、癩病人でも不具者でも、誰で



も信する者には、恩を下し玉はるのは、神の御恩寵です。

八

鐵道局に勤めて居る、華族さんの信者が一人有る。此人が或時、大舉傳道の新騰會へ出席し、神様の恩に感じて、一層信仰の心が、炎々上つた。其所で、此人は、恐ろしい豪らい、決心をした。自分は、五千二百何拾人と云ふ、鐵道工夫の取締をして居るから、神様の教を、此工夫の間に、傳へたい。如何かして、此五千人の人々に、誠の道、人間の務、神様に事へる道を、教へたいと、決心した。夫れから、數百枚の廣告を持って、工夫の居る所へ出掛けて行て、これを配た。多くの、文身だらけの、ペランメー社會、血を流す事などは、何のヘサマとも、思はない連中、此人々に、靜かに神様の話をしやうとした。笑ふ者もあれば、罵る者あり、蠅蝶の様な、鉄拳や石や瓦も、飛て來さうな、有様である。けれども、平氣で、神様の話をつづけやうとしたが、何分此人は、話が下手だ。口か思ふやうに廻らない。生來の訥辯で、なか／＼困た。然し勇氣を奮て、神様に祈りながら、話して居たが、遂に一枚のトラクト、(教を書た一枚刷

のものを、讀み上げた。これは、耶穌の教のあらましを書た、(眞の救)と云ふ、トラクトであつた。これを一枚つゝ、大勢にやりたいたいと思たが、此トラクトは、たつた一枚よりない。仕方がないから、此一枚のトラクトを續み上げた。しかも、三度同じものを繰かへして、讀だ。そして、神様の道を、大勢に傳へた。其翌日、また／＼傳道をするつもりで、半日神様に祈て、道を説き始めたが例の通り、訥辯なので、なか／＼苦しい。ところが不思議なことが此時起て來た。と云ふのは、此華族の兄弟が教を話して居ると、五十格好の一人の人がやつて來て、「誠に御苦勞様です。結構な事です。私も少し、御助け申ませう」と云ふたので、飛び上つて喜んだ。此助けに來た兄弟は、熱心を信者で、しかも、話の上手な人であつた。さあそれから、大變に力を得て、二人がかりで、ます／＼、五千の工夫に、教を傳へ、凡十七人の、親分株の人々と、二千餘人の、工夫に、教を話したが、皆よく聞て居た。中には、邪魔なる者もあつたが、一生懸命に、靜に道を聞て、神様の御惠を味はつた人も、多くあつた。此傳

九



道は、日々ますます、盛になる有様であるとは、何ぞ、喜ばしい事ではあるまいか。今迄、耶穌のやの字も、知らない人々の間に、神様の救の種が、しかも華族さんの手で、蒔かれる様になつたのは、不思議です。神様の御力は、恐ろしい程、廣大であります。

青年數寄屋橋の上に泣く

大舉傳道の、傳道隊の人々が、數寄屋橋の上に、立て、説教會の廣告を、配つたり、救を話したりして居る所へ、一人の青年が通りかゝりましたから、一人の人が、廣告をやりながら、少し、神様の話や、人の罪の話をし出すと、青年は、何事か、思ひ當る事が有たと見えて、眼元に涙を浮べた。夫れから、一人の人は、此青年を教會に連れて行て、ねんごろに、神の恩と、主キリストの救の話をしたら、此青年、前非を悔ひて、涙を流して、神に従ふ決心をいたしました。これは、ある中學校の生徒です。此青年の、話をきくと、實に涙が出る様です。

「私は九州〇〇の者です。父は没しまして、母は國元に居ります。私は伯父の處に、世話になつて居りますが、伯父の家は、金もあり物もありますが、餘り善い、家でありませんから、なかく、善い事はかり、聞かせては呉れません、時には、伯父の爲に、心にもない、虚言も、云はなければなりません。私は今迄、悪い友達に誘はれて、悪い事もいたしました。悪い友達に、外套などを、持て行かれた、様なことも、ありました。私の友達に云ふに云はれない、聞くにきかれない、醜るしい、行をして居ます。これからどうか、神様の道を信じて、本當に、行を改めて、勉強しようと思ひます。」

行 狀を改めて、神様の道に従ひ、眞の人間になる事が、亡き父の孝行、國に在る母親への、孝行だと云ふ、話をした時に、青年は、熱き涙を、兩のまぶたに濕した。此青年が、數寄屋橋の上を通たと云ふこと、これが實に不思議な、神様の御招きでありました。神様の御導きで御座り升た。



啞兒父を導く

「座頭も、京へ上る」と云ふ、諺がある。これは、志さへあれば、何事でも、出来ぬ事は無いと云ふ教である。啞でも盲人でも、一心になれば、随分、めづらしい働をするものです。神様の御導きがあれば、不思議な事があります。丁度五月十八日の晩でした、數寄屋橋の教會で、説教會の後「誰が神様に、従がはふと云ふ、決心の人はありませんか、キリストの教に、入りたいと思ふ人は、御立ちなさい」と云ふと、一人の人が、立上つた。そして、神様に従ふ約束をいたしました。其後二三日たつてから、信者の一人が、此悔改めた人を、訪問した。すると、主人は留主で、細君と一人の男兒、しかも、啞の男兒が、家に居りたした。此可愛らしい男の兒は、少しは、耳が聞えますが、物も云へず、實によく、氣の毒な啞です。ですから、御両親も、一ト沙あはれもせず、道理で、誠に可愛がつて、居りました。訪問した一人の信者は、細君に逢て、だん／＼話をして見ると、實に不思議です。此啞兒の父が、神様に従ふやうに、なつたのは、不具者の啞、此男兒の力でした。「汝等もしだまりなは石臼べし」と云ふ詞がありますが、神様の教の、有難い事、主イエスの救の貴い事を、知り乍ら、此喜の音を、人々に知らせなければ、石さへ、聲を揚げて、叫びます。此啞兒の父は、二三度、神様の教を聞いたこともあつたが、なかく、神様の信者になると云ふ様な、心持もなかつた。所が、此説教會へ、啞兒が来て見て、夫れから、どうかして、父親を、説教會へ、連れ出さうと思つて、一生懸命に、勤める。泣く兒と地頭とか云ふ様に、可愛い兒には、勝つことが出来ない。とう／＼、導かれて、度び／＼、説教會へ来て、教を聞て居る中に、いよく、神様に従ふことゝ、なりました。

斯様な蓋配ですから、家の内も、何處もなく、親しく、睦しく、神様の教が、傳はつて行つたものと見えて、或人が訪れた時も、細君は、病をわして、いろ／＼あしらつて、種々物語をした、後で、祈りをした時に細君も、とも／＼、涙を流して、神様の御恩



を味ひました。

丁度其後、一二月経てからの、或晩でした。此啞兒の父さんは、またく説教會に來ましたが、例の如く、神様に従へと云ふ、勸があつて、

「貴所も、御決心なさいませんかと、」勸めると、此啞兒の父さんは、「イエ」私は、先夜起て、決心をいたしましたから、もうキリスト信者であります」と、答へました。實に立派な、信仰を云ひ表しました。

角力取、動かす蚤の、力かな。

です。此啞兒の力が、父親の、石の様な心を砕いて、神様の、信者といたしました。此啞兒は、此頃、毎日、説教會の廣告の、引札を配ております。

啞の悔改

啞が、神様の御榮を現した、話でも一つ、感心な話があります。一人の啞が有た。これは、耳は聞けるが、物を云ふことは出來ない啞でありました。もう一疋前の男です

が、毎晩、神様の教會へ來て、教を聞て居ましたが、餘り、一生懸命に、教を聞て居るのを見て、一人の傳道士が、紙と筆を持て來て、

「貴所は、イエスキリストを、信仰なさいませんか、神様の御恩、私共の罪の恐ろしいことが、御分りになりましたか」と、

書て見せた、すると、啞は、涙を流して、自分の罪のこと、神様の御恩の事、イエスキリストの救の事を、信仰すると、立派に、熱心に、其信仰を云ひ表し、神様の恩をいただきました。

神様の御恩は、津々浦々のはてまでも、ゆき渡り、九重の雲の上より、草屋の民にまで、及びます、盲人でも、聾でも、啞者でも、不具者でも、穢多非人にも及んでおります。

「凡て、信する者は、ほろぶることをぞくとて、永遠に命を得しめん爲なり」



どは、神様の、萬人を愛し玉ふ、大御心で御座ります。

### 女學生の悔改

二百人も集つて、祈りをして居る、盛な祈禱會が有りましたが、此所へは、官吏も来る、代議士も来る、商人も来る、學生も来る、傳道師も来る、實に種々な、人が集りました。誰れも彼れも、一心不乱に、神様に祈て居りました。此祈禱會のすんだ後に四五人の蝦茶の、袴を穿た、女學校の生徒が、居残て居ましたが、暫くすると、會堂の隅の方に、四五人の女學生集つて其友達の爲に祈て居る、一座、涙にくれて、神様に祈をした。此時斷然、今迄の罪を、神様の御前に悔ひて、従たのは、實に、三人の御嬢さんであつた。

此生徒は、五年も、神様の教を聞て居た。前の三年は、上州の前橋で、後の二年は、東京で、教を聞いた。けれども、なかく、神様に従はない、友達も祈た。教師も求めた。けれども、其甲斐もなかつたが、此度と云ふ今度は、神の力で、堅い心も打破

られて、涙を流して、罪を悔ひ、主に従ひました。

又一人は、自分の家の者は、皆な信者で、婢僕までも、信者であるのに、如何いふ譯か、神様の教にさからつて、おとなしく、従はない、至て頑固な、娘であつたが、此祈禱會で、前非を悔ひて、喜び勇んで、神様に従ひました。

「岩の如く固き心、打碎くは御力のみ、イエス君は吾罪を、雪の如く洗ひ清む。これこそ、誠の主の恩、神の御力であります。

### 愛らしい御嬢さん三人を導く

子供は、一家の花です。實に、夫婦の中の、錠です。子供の力程、世の中に、力あるものはありませぬ。矢張、ある説教會の終りでした。「誰か、神様に従ふ決心をなすつて、此求道申込書へ其名を御書となさる人は、ありませんか」と、問ひますと、一人の婦人、奥様が、立上つて、

「私は、昨晚、名前を書く積りでありましたがつひ書かずに、歸りましたから、何卒、



御書かせ下さり」

「云ひますから、傳道師は、」あなたは、眞の救がお分りになりましたして、キリストの恩を、御さとりになりましたか」と、聞きますと、

「昨夜は、神様の御恩が、分り、喜びが満ちくして、溢るゝばかりで、夜も寝られぬ様でありました。夫れから、今朝も、朝から、喜びの餘り、近處の奥様達を、御誘ひ申しまして、只今も、爰へ、御二人御連れ申しました。

「どうしてあなたは、明晩、此集會へ、御出になりました、誰が、御誘ひ申しました」と、聞いて見ると、不思議、實に不思議、これこそ、子供の方でした。小さい嬢さんの、方でした。

「私の子供が、申しますには、幼稚園の先生が、是非く御説教を、聞きに御出なさいと、仰しやいましたから、母様どうぞ、教會へ往て下さい、先生の仰ですからと、申しますから、つひ教會へ参りました。そして、此様な、有難い、御恩を頂きました。」

と答へました。集りた人々も、不思議な子供の働きに、感じて居りましたが、此奥様は、聲を小さくして、わろく聲に、涙と共に、其夫の、救に入る様に、なることが、私の願です。と申しました。一座の人々も、其誠心に感じ入て、思はず涙を淨べました。そして、此晩、此奥様が、御連れになつた二人の奥様も、どうく、決心して、主に従ひ、神様の救に入りました。子供の爲に、導かれて、自分か罪の赦を受け、また、二人の奥様を救に入れた、此奥様は、立派な紳士の奥様です。紅葉の様な、小さい手でも、神様が、御用にあれば、此様な、大きな働か出来ます三人の大人を、引きつれて、神様の子供とし、主の婢としたのは、實に、この可愛らしい、子供の方です。

六部神の道を求む

材木町の教會の牧師の所へ、朝まだきに、一人の、新しく神様に從つた信者が卅五六の、女の六部を連れて來て、



「これは、私の同國の者ですが、こんな有様になつて、何の安心も無い様で、誠に氣の毒に思ひますから、何卒、キリストの教を、聞かせてやつて下さら」と云ふ、牧師は、六部の求道者だから、驚いて、不思議な事だと思つた、が、だんく神様の事、キリストの救の話をいたしますと、六部も、大分解得した様な、様子でありました。牧師は、跪いて、六部の爲に、祈りました。六部は、ますます、神様の恩に感じ、神様の愛、主の救を、悟つた様子でしたが、

「そうすれば、私の信仰して居た、神も佛も、誠の神佛ではなく、私の信仰は間違でありました。」と云ひ乍ら、又、

「私が、六部になつたのも、もとはと云へば、悲しみの餘りでした。私は、兄弟七人あつて、其中の六人が、皆死で仕舞ました。私は、つくづく世の中が、いやになり、悲みの餘り、こんな姿に、なりました。六部となつて廻國でもしやうと思ひました。今更思へば、御恥しい話です。私も、どうかして、眞の神様に、従ひませう。私も、

一人身でもなく、夫もあることをですから、是非、ともぐに、神様に、従ひたいと思ひます。」と言葉をつがへて。牛込の、巳か住居へ歸りました。

祈禱の應驗

「求めよさらば與へられ、尋ねよさらば逢ひ、門をたけよさらば、開かるゝを得ん」

これは神様の御約束です。祈りをすれば、まこと、聞て下さると云ふ、神様の御約束です。

或晩の、説教會の終りに、牧師さんが「あなた方の中で、朋友か親類の人を、神様に導きたいと云ふ、願のある人がありませんか」と、云ひますと、大勢立ち上りて、友達や親類の人を、導きたいと申しました。其後又牧師が「あなた方の中で、先日の願のなつた人は、御立ち下さい」と申しますと、七人の男女が、立上つて、神様が、祈を聞いて下さつて、友達や親類を、信者にしたと云ふ、證據を立てました。此内の



一人の御嬢さんは、

神様は、私の願を聞いて下さいまして、願の外に、二人の友達を、御救ひ下さりましたから、また、外の人を、導く事の出来るやうに、神様に願います」と申しました。聖書に、「正しき人の熱き祈は、力ある者なり」と書いてあります。誠心こめて、祈る、祈禱は、さつと、神様は、御聞き届け下さいませす。  
甲斐なき心の、力をつよめて、浮世を渡るは、祈りにこそよれ。  
思は亂れて、言葉足らずとも、主の名にたよりて、誠心に祈れ。  
疑はで祈れ、君にまかせなは、心の思も、もれず聞かるべし。

巡査の悔改

水上警察署の、巡査が、悔改めて、神に従ひました。此人が、教會で、大勢の前に立て、信仰のあかしをした事は、實に、味ひのある話です、なか／＼、おもしろい話です。「私は今迄、耶穌教の話も聞き、少しは調べもいたしました。そして、内處で、聖書を

を読たり、教の本を読たり、して居りましたが、私は、何も教會へ出たり、信者になつたり、する様な、必要はないと、思ひました。然し、今晚此所へ参りまして、此様き、考の、全く、間違であることが、分りました。自分の悪事を、神様の前に、御詫して、罪の赦を得て、信仰の言ひ表はしを、しななければ、いけないと云ふことが、分りました。私共の職掌は、常に、強盗とか、人殺とか、さまざま、悪い事を探索し、悪人の跡を逐ひ、悪事を取調へると云ふ様に、何時も、悪事ばかりに、たづさはつて居りますから、何時か、悪い感化を受ける様な、事はあるまいかと、恐ろしく、思ふ位です。それ故、私共の様な、職掌に在るものは、どうしても、神様の光に照らされて、自ら衛ることを、つとめなければ、なるまいと思ひます。

これは、水上警察の、巡査の話ですが、此他に、京橋區の巡査で、去年信者になつた、實に感しんな、人があります。此人は、東京府下、三千人の巡査に、何分なりとも、



神様の道を、傳へたいと云ふ、大望を、抱いて居ります。そして、常に、此事を、神様に祈てねります。此巡査は、此頃來、十二名の巡査を、神様の道に導きました。

三人の子供、父母兄弟の爲に祈る。

毎晩、七八十人から、百人迄位の子供を集めて、道の話、神様の救の話をして居りました。或晩の事、教師は、祈の話をして、神様は、赤心から願へは、誰の祈でも、聞て下さると云ふことを、話し、集會がすんでから、諸子の中で、誰か、神様に、何か願いたい、祈りたい、事は無いかと、聞たら、祈りたい事が有ると云ふた、女の子か、三人あつた。夫れから、外の小供を歸してから、三人を残して、たいて、ともぐ、神様に祈た。其三人の子供の祈、罪もない十二の女の兒が、心をこめて、神様の前に踞いた。二人の、男女の教師は、此いぢらしい、有様を見て、胸一はいになつた。先立つものは、涙で有た。やかて一人の女の兒は、こう祈た。

「神様、私の伯父さんが、病氣ですから、早くおなほし下さる様に、イエス様に由

りて願います」と祈ると一人は

「わたしの父さんと、母さんが、烟草を召上りますから、御やめなされる様に、して下さい、イエス様に由りて願ひます」と祈た。二人の教師は、ほとんど、座に堪へなかつた。又一人は、

「神様、兄いさんが御病氣ですから、どうぞ、おなほし下さり、イエス様に由りて願ひます」

あゝ、實に愛らしい、此祈、両親がもし聞たなら、きつと、烟草入を破て、烟草やめるに、違ひない。此罪もない小供に、此苦勞をかけるのは、誰の罪です。あゝ子供の祈、此位、清い、立派なものは、世の中に、ありません。神様は、きつと、御聞き遊はすに、違ひない。兄さんの御病氣、おちさんの御病氣も、屹度、日ならず、全快なされるに違ひありません。



分捕の指環「巡查さんのさくげもの」

神の軍勢と、悪魔の軍勢と、戦争をして、悪魔の手から、分捕た、分捕品がある。これは、金の指環、其由来を聞いて見ると、ますます、神様の御力の、廣大な事が分ります。去年の冬、悔改めて、神様の道に従った、一人の巡查がある。此巡查は、もともと巡查ではなく、〇〇寺の運動を助けて、働いて居た、云は、僧さんの先棒を、振た人です。此人は、なかくの熱心家で、一時は、佛教の爲に、一命も差出すと云ふ様な、勢で、耶穌教などには、もう、大反対で、縦横に、妨害を試みた人で、此熱心な働さが、なかく功が有たので、〇〇寺は、其賞として、金の指環を、贈りた。此指環が、今、神様の御用に立つとは、不思議千萬な事ではありませんか。此人は、其後巡查になつて、現に、京橋區内に、奉職して居りますが、至て貧しいけれども、此度、此賞品として、贈られた、金の指環を、祈禱會の場所へ持て来て、傳道費としたい、神様の道を多くの人に傳へる、費用の助けにしたいと云ふて、此指環を、寄附し

たのです。

或人が、其志に感じて、即座に、十圓で買ひました。そして、これは、神の軍勢が悪魔から、分捕た、戦利品であるから、紀念の爲め、外國に送ると申しました。思へば、思ふ程、神様の御力は、不思議です。不思議と云へば、不思議の様なものゝ、天地を造た神様、人間を造た神様、人の心をつくつた神様が、人の心をつくりかへて、異性な、人になさると云ふことは、格別、不思議な事ではありませぬ。

みかみの力は妙しくたへに天地つき日をも、もれなく治む。

神の御恵は、かぎりあらねば、百八十國まで満ち渡れり、

獨りの神子を世にあらせて、罪人を招き、道をふまこむ。

一青年徒歩横濱より來る

東京の中央に、神様の恵が降て、多勢の信者が、出來、不信仰な人も、信仰を新にし、親を導た子、兄を人た弟、さまざま、喜の音が、横濱に聞わた。此時、横濱に、一



人の青年が有た、此青年は。熱心な信者である。父母は、まだ神様を、御存知ない、  
 どうかしくして、此度の恵を被りて、父母を、神様に導きたい、とまづ、神の恵を、  
 味ひたいと云ふ、考が起ると、矢も楯もたまらない、直東京へ往て、御恩籠を被りた  
 いと、思ふたけれども、両親は、なかくゆるさない。辨當も呉れない。汽車賃も出  
 してくれない。夫れから、此青年は、断然決心して、たつた廿五銭を持って、廿三日の  
 午后、横濱を出て、徒歩で、東京へ來た。東京へ着たのは、七時頃で、或教會へ着た。  
 着くと、勞れて居るから、其まゝ、一室に入りてすやくと寝りに就いた。此青年は、  
 まだ十八九の青年である。是非とも、親を、神様に従はせたい、どうか自分が、先づ  
 恵を受けて、歸て、父母を、導きたいと云ふ、一心で、八里の遠い道を、歩いて、東  
 京に來た。其熱心と赤心は、實に感ずべき事でありませう。此位な熱心があれば、  
 兩親を導くことが出來ませう。聖書には

「それ、信仰は、望む所を疑はず、未だ見ざる所を、憑據とするもの

也」とあります。

貧婦のレプタリ貧の一燈

昔キリスト、御在世の時、貧しい貧婦が、多くの金持と一所に、神の殿へ参りまして、  
 賽銭箱に、金を投げ入れるのを、御覽になつた時、富者は多く投げ入れましたが、  
 婦の、たつた、レプタと云ふ金、丁度四厘ばかりの金を、投げ入れました。キリスト  
 は、之を御覽になつて、

「誠に、我なんぢに告ん箱に投入し、凡ての人々よりも、此貧き貧  
 婦は多く投入たり、そは、彼等は皆その餘れる所を以て入れこ  
 の婦は、その不足どころより、其すべての、所有すなはち全業を  
 盡く入れたれば也」(可二〇四三、四四)

と申されました。丁度日本で云ふ長者の萬燈より貧の一燈と云ふこととよく、似て居  
 りませう。



大舉傳道隊の人々が、四辻に立て、神様の教を、説ておりますと、一人の婦人が来て、十錢銀貨一ツを、或人に手渡して、跡をも見ずに、何處かへ、往てしまいました。姿をかくして、仕舞ました。此十錢金は少ないが、神様の御用の爲に、つかひたいと云ふ、心掛け、又、右の手になす善い事を、左の手にも知らせないと云ふ、心かけは實に感服の外ありません神に事ふ人々の心がけはかくありたいものです。

献物のかずく

(金の指輪)

或、御嬢さんが、金の指環を一ツ、傳道の費用の爲に、神様に献げました。所が、神様を知らない未信者の人が、此嬢さんの、神様に事へる、心掛に感じて、實際の價よりも、貴く、此指環を、買て下さりました。これは、此嬢さんの、赤心を、神様が、お喜びになつたからであります。

(現世と後世の眞の救と云ふ刷物)

或夫人が、誰れでも、神様の教が、分る様に、したいと云ふ赤心から、「現世と後世との眞の救」と云ふ、一枚刷の、刷物にする、原稿のしたがきに、五圓の御金を添へて、神様に、献げました、所が、神様の御導ひきで、此刷物は、七万枚も、印刷する様になつて、大變お、益を人々に與へました。

(耶蘇教の書物)

多くの、耶蘇教の書物を賣る、本屋さんは、千部、万部、百部と云ふ様に、思ひくに、多くの本を、神様に献げて、傳道の、助けをいたしました。此書物の總數は、三万冊ばかりになりました。

(お金の寄附)

日本人と、外國人とから、神様に献けた御金は、實に、大變なものです。三四百圓の、御金は、神様の御用の爲に献けられました。



# 乳母車

ある教會に、一人の婦人が有る。一昨年、夫に別れて、二人の子供を養ふて熱心に、主の道を信じ、常に主の婢の、勤めを怠らすに、子供にも、神の道を教へて居る。未だ、年若い婦人で有りながら再縁もせず、夫の忘れ記念、いとしい二人の男の子を養ふて居る、兄は七歳で、弟は五歳である。此頃、大舉傳道が始まると、毎日毎晩、主の御用、神様の御用の爲に、トラクトを配り、廣告を配つて居る。兄の男の兄は、足を傷めて、歩けない、此男兒を、乳母車に乗せて、母と弟が、車を引き乍ら、神様の御用をつとめて居る。毎日、親兒三人打連れ立て、此設教會の、助をして居ります。かよわい女の身、力の無い兒供の身で有りながら、御母様と一所に、笑ふ人、嘲る人も有る中を、堪へ忍んで、働いて居ります。神様は必ず、此感すべき婦人、此母と兒とを祝し玉ふて、此働の實を、結ばせたまふに、相違ありません。あく此乳母車、實に、冷たい信者の眼を撓し、道を知らぬ、多くの人にも、廣大な恵を、與へます。

明治卅四年五月廿九日印刷  
 全 年六月一日發行

定價 二二錢  
 郵税 二二錢

著者

小室篤次

發行人

鵜飼猛

印刷人

馬淵鶴吉

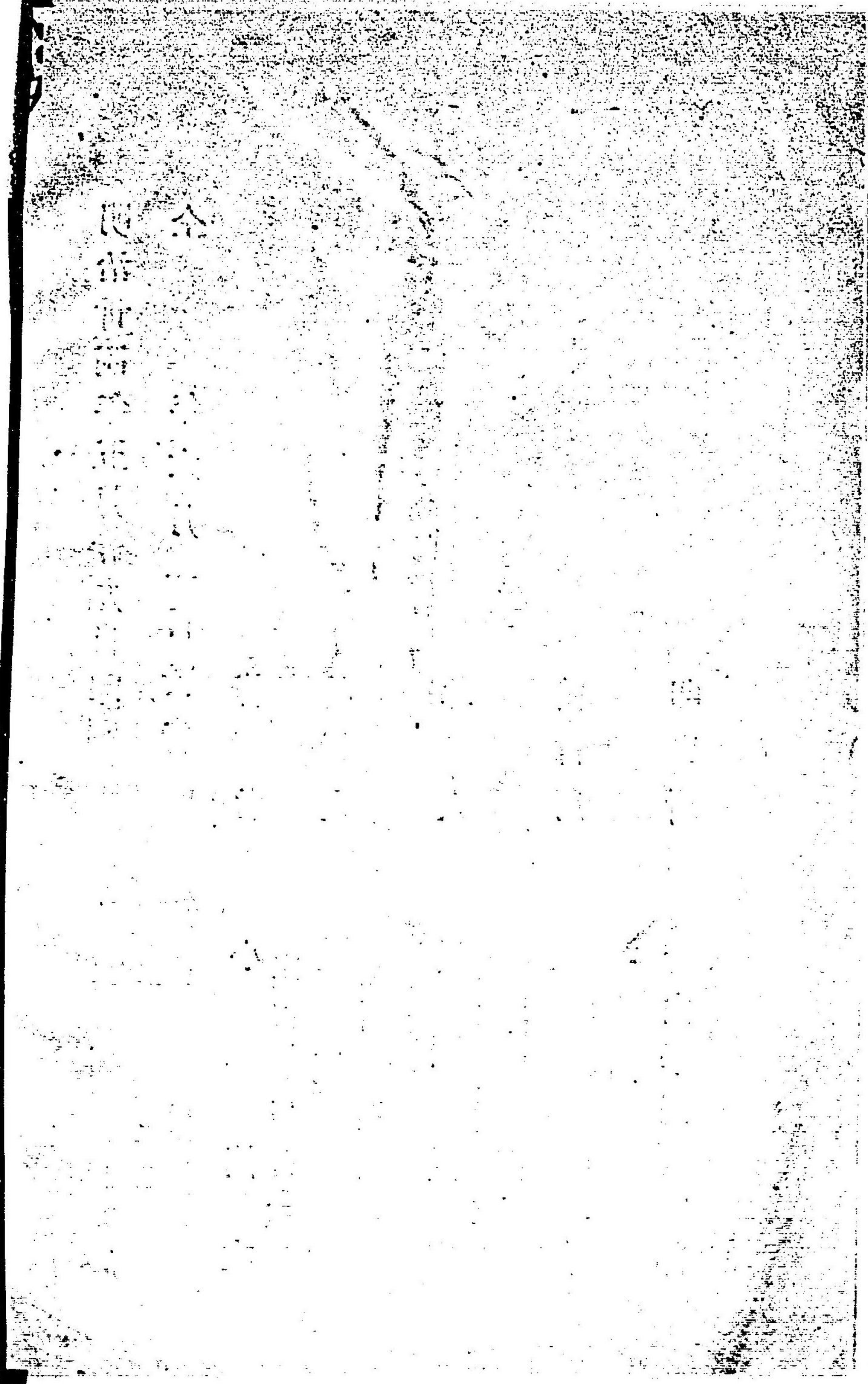
發行所

東京府豊多摩郡澁谷村大字青山南町七丁目一番地 教文館

印刷所

東京府豊多摩郡澁谷村大字青山南町七丁目一番地 青山學院實業部





全

第

一

卷

第

一

册

第

一

册

第

一

册

第

一

册

第

一

册

第

一

册

第

一

册